漁民の伝えた致富譚

“蛸長者”の昔話

はじめに

本稿は“日本昔話大成”（以下『大成』と呼ぶ）では“蛸長者”
“日本の昔話通覧”（以下『通覧』と呼ぶ）では“たか取り長者”と呼
ばれる昔話を取り上げ。その歴史的・社会的な背景を考察するもの
である。この昔話については、すでに関数吾や岩瀬博によって、そ
の伝播経路についての指摘があるが、本稿ではこれをより詳細に論
じた。

この昔話は、貧しい蛸取りの人々や漁師や魚屋が、偶然に得てある
機物を備えて長者に募るが、男に嫁がれるという伝説が伝わ
る。この昔話の形態は同一でも、主人公の男の職業が蛸取りや魚屋ではない事例も
いくつもあるが、本稿ではそうしたものは“蛸長者”として扱
たるものである。

そこで、そうした伝説が生じるように、伝承地だけでなく、語り手
の氏名が分かる場合はそれを示した。また、原典に当たって確認す
る場合の便宜を考慮して、同一の事例で複数の資料集（昔話集、民
話集など）に掲載されている場合、注にそれを確認した原典をす
べてあげてページも記載したほか、編者と採話者間に違う時、採
話者が明らかの場合には採話者も記載した。また、次のような注
記もする。

大嶋 善 孝

—24—
大成に内容を所載

事例二 青森県三戸郡田子町上郷

うばに取っているので鯨は包米邦と呼ばれる男が、長者が鯨を

事例三 青森県三戸郡五戸町新井山里

子が親屋で小さい娘が鯨を信じて暮らしている。父親が旅先の

事例四 青森県下北郡脇野沢村寺田五

鯨を育てて嫁に迎え金持ちになる。

事例五 青森県八戸市鴨沼町

大坂の鯨を飼うという魚屋が、江戸に出て魚を売っている。鯨

事例六 青森県西津軽郡二戸町水沢山ロタ

鯨は江戸で一番の金持ちを嫁にすることがになり、物屋敷で娘を迎

事例七 青森県弘前市

鯨のある町で高名なしの鯨屋敷に嫁が迎えられる。娘を嫁にし、

大成に出典のみを所載

通観に所載されず

通観の「第二七巻補遺」に出典のみを所載

通観に所載

通観に所載されず

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所載

通観に所载

通観に所載
【事例一〇】
秋田県男鹿市加茂漁港

【事例一一】
秋田県男鹿市新湊町

【事例一二】
新潟県佐渡郡岩手村

【事例一三】
新潟県佐渡郡相川町

【事例一四】
新潟県佐渡郡相川町

【事例一五】
新潟県佐渡郡相川町

【事例一六】
新潟県佐渡郡相川町

【事例一七】
新潟県佐渡郡相川町

【事例一八】
新潟県南魚沼郡常磐村木川

【事例一九】
岩手県下閉伊郡岩泉町

【事例二〇】
岩手県下閉伊郡岩泉町
例一（五）
新潟県長岡市上島町 青柳通

例一（六）
新潟県長岡市上島町 青柳通

例一（七）
新潟県長岡市上島町 青柳通

例一（八）
新潟県長岡市上島町 青柳通

例一（九）
新潟県長岡市上島町 青柳通

例一（十）
新潟県長岡市上島町 青柳通

例二（一）
群馬県沼田市新谷町 細川にき

例二（二）
群馬県沼田市新谷町 細川にき
州の本間四郎という長者に正月十五日に白髪のいさが現れ、娘の野積の浜の蛙兵衛という長者に会話するというので、娘と父親が七日の船の荷物を積んで野積の浜に向かう。金兵衛は空き家の長者屋敷に荷物を運び込み、娘と物を離れず四人で出て来た。蛙兵衛は長者になる。

【例例二三】
長野県下水内郡栄村　上賀川

新鯨に蛙屋というのがある。この庭はきつねが掛け集めて大坂に行い、鈴池で子供に小判をおもしに与える。鈴池では蛙屋を金持ちだと思わせられる。娘が来るが、蛙屋には息子がいないので、庭はきつねの息子の娘になる。娘は化物屋敷に行き金持ちに出会って金銀を授かる。庭はきつねの家は鈴池や蛙屋により金持ちになる。

【例例二四】
鳥取県隠岐郡西崎町

蛙をとっている蛙屋男という翁と息子がいる。翁は伊勢に参宮し、負けた百両を寄付する。これを見た鈴池が翁を金持ちと思い、大坂の家に連れて帰る。翁が息子の娘が欲しいと言うと、娘にやるという。娘が来ると言、化物が出るという大きな家を買って移り、永楽を回っていると、瓦礫から赤い衣と白い衣の一尺法師が出て来た。人形の作り方をする、翁の下に入れる。そこで翁と小判や銀の入った壺がある。

【例例二五】
鳥取県隠岐郡海塚町

蛙屋は参宮の途中で鈴池と出会い、息子の自慢をする。参宮の後、鈴池は大阪の鈴池に寄り、金尾錦参りの後に、再び鈴池に寄る。鈴池の旦那は、娘を蛙屋の息子の娘にやると言う。娘が来るとき、息子は鈴池の職業を変えると言うが、娘は変わるわけではない。鈴池がかつてはいけないと言う。鈴池が資本を出し、現在の蛙屋を始めて繁栄する。

【例例二六】
鳥取県隠岐郡知村前横倉

鈴池と鶴屋が蛙屋に売る。鶴屋は無駄に思いつめている蛙屋八兵衛は蛙屋である。金を賭けてぼろを着て旅に出る。大阪の天王寺で金の茶釜を募金すると評判になり、旅人は蛙屋か錦やると言う。帰った女は新家の大きな家を借り、蛙屋八兵衛という表札をつけてる。新家の婚礼をして、男はもとの家屋八兵衛という♪をつけて来た。金銀の相模で金相模に来たのだ。

【例例二七】
島根県東部郡尼崎町

帰りに、蛙屋が一人で寝ているとガーンと音がする。帰った男は新家の大きな家を借り、蛙屋八兵衛という表札をつけてる。新家の婚礼をして、男はもとの家屋八兵衛という♪をつけて来た。金銀の相模で金相模に来たのだ。
房をそっかに置いてしまったら、小さな屋根が立っている。啓示は、小さな屋根が立っている。啓示は、小さな屋根が立っている。啓示は、小さな屋根が立っている。

「例例二」
香川県佐渡島
大阪の鴨池の島と兵庫の章魚罠取りのおやじが、金毬敷で立っていったが、気が散っており、おやじが、つぼが千あると言った。

「例例三」
香川県佐渡島
京都の大本山の章魚取りの女が、つぼが千あると言った。

「例例四」
香川県佐渡島
大阪の鴨池の島と兵庫の章魚罠取りのおやじが、つぼが千あると言った。

「例例五」
香川県佐渡島
大阪の鴨池の島と兵庫の章魚罠取りのおやじが、つぼが千あると言った。

「例例六」
香川県佐渡島
大阪の鴨池の島と兵庫の章魚罠取りのおやじが、つぼが千あると言った。

「例例七」
香川県佐渡島
大阪の鴨池の島と兵庫の章魚罠取りのおやじが、つぼが千あると言った。

「例例八」
香川県佐渡島
大阪の鴨池の島と兵庫の章魚罠取りのおやじが、つぼが千あると言った。

「例例九」
香川県佐渡島
大阪の鴨池の島と兵庫の章魚罠取りのおやじが、つぼが千あると言った。

「例例十」
香川県佐渡島
大阪の鴨池の島と兵庫の章魚罠取りのおやじが、つぼが千あると言った。

「例例十一」
香川県佐渡島
大阪の鴨池の島と兵庫の章魚罠取りのおやじが、つぼが千あると言った。

「例例十二」
香川県佐渡島
大阪の鴨池の島と兵庫の章魚罠取りのおやじが、つぼが千あると言った。

「例例十三」
香川県佐渡島
大阪の鴨池の島と兵庫の章魚罠取りのおやじが、つぼが千あると言った。

「例例十四」
香川県佐渡島
大阪の鴨池の島と兵庫の章魚罠取りのおやじが、つぼが千あると言った。

「例例十五」
香川県佐渡島
大阪の鴨池の島と兵庫の章魚罠取りのおやじが、つぼが千あると言った。

「例例十六」
香川県佐渡島
大阪の鴨池の島と兵庫の章魚罠取りのおやじが、つぼが千あると言った。

「例例十七」
香川県佐渡島
大阪の鴨池の島と兵庫の章魚罠取りのおやじが、つぼが千あると言った。

「例例十八」
香川県佐渡島
大阪の鴨池の島と兵庫の章魚罠取りのおやじが、つぼが千あると言った。

「例例十九」
香川県佐渡島
大阪の鴨池の島と兵庫の章魚罠取りのおやじが、つぼが千あると言った。

「例例二十」
香川県佐渡島
大阪の鴨池の島と兵庫の章魚罠取りのおやじが、つぼが千あると言った。

「例例二十一」
香川県佐渡島
大阪の鴨池の島と兵庫の章魚罠取りのおやじが、つぼが千あると言った。

「例例二十二」
香川県佐渡島
大阪の鴨池の島と兵庫の章魚罠取りのおやじが、つぼが千あると言った。

「例例二十三」
香川県佐渡島
大阪の鴨池の島と兵庫の章魚罠取りのおやじが、つぼが千あると言った。

「例例二十四」
香川県佐渡島
大阪の鴨池の島と兵庫の章魚罠取りのおやじが、つぼが千あると言った。

「例例二十五」
香川県佐渡島
大阪の鴨池の島と兵庫の章魚罠取りのおやじが、つぼが千あると言った。

「例例二十六」
香川県佐渡島
大阪の鴨池の島と兵庫の章魚罠取りのおやじが、つぼが千あると言った。

「例例二十七」
香川県佐渡島
大阪の鴨池の島と兵庫の章魚罠取りのおやじが、つぼが千あると言った。

「例例二十八」
香川県佐渡島
大阪の鴨池の島と兵庫の章魚罠取りのおやじが、つぼが千あると言った。

「例例二十九」
香川県佐渡島
大阪の鴨池の島と兵庫の章魚罠取りのおやじが、つぼが千あると言った。

「例例三十」
香川県佐渡島
大阪の鴨池の島と兵庫の章魚罠取りのおやじが、つぼが千あると言った。

「例例三十一」
香川県佐渡島
大阪の鴨池の島と兵庫の章魚罠取りのおやじが、つぼが千あると言った。

「例例三十二」
香川県佐渡島
大阪の鴨池の島と兵庫の章魚罠取りのおやじが、つぼが千あると言った。

「例例三十三」
香川県佐渡島
大阪の鴨池の島と兵庫の章魚罠取りのおやじが、つぼが千あると言った。

「例例三十四」
香川県佐渡島
大阪の鴨池の島と兵庫の章魚罠取りのおやじが、つぼが千あると言った。

「例例三十五」
香川県佐渡島
大阪の鴨池の島と兵庫の章魚罠取りのおやじが、つぼが千あると言った。

「例例三十六」
香川県佐渡島
大阪の鴨池の島と兵庫の章魚罠取りのおやじが、つぼが千あると言った。

「例例三十七」
香川県佐渡島
大阪の鴨池の島と兵庫の章魚罠取りのおやじが、つぼが千あると言った。

「例例三十八」
香川県佐渡島
大阪の鴨池の島と兵庫の章魚罠取りのおやじが、つぼが千あると言った。

「例例三十九」
香川県佐渡島
大阪の鴨池の島と兵庫の章魚罠取りのおやじが、つぼが千あると言った。

「例例四十」
香川県佐渡島
大阪の鴨池の島と兵庫の章魚罠取りのおやじが、つぼが千あると言った。

「例例四十一」
香川県佐渡島
大阪の鴨池の島と兵庫の章魚罠取りのおやじが、つぼが千あると言った。

「例例四十二」
香川県佐渡島
大阪の鴨池の島と兵庫の章魚罠取りのおやじが、つぼが千あると言った。

「例例四十三」
香川県佐渡島
大阪の鴨池の島と兵庫の章魚罠取りのおやじが、つぼが千あると言った。

「例例四十四」
香川県佐渡島
大阪の鴨池の島と兵庫の章魚罠取りのおやじが、つぼが千あると言った。

「例例四十五」
香川県佐渡島
大阪の鴨池の島と兵庫の章魚罠取りのおやじが、つぼが千あると言った。

「例例四十六」
香川県佐渡島
大阪の鴨池の島と兵庫の章魚罠取りのおやじが、つぼが千あると言った。

「例例四十七」
香川県佐渡島
大阪の鴨池の島と兵庫の章魚罠取りのおやじが、つぼが千あると言った。

「例例四十八」
香川県佐渡島
大阪の鴨池の島と兵庫の章魚罠取りのおやじが、つぼが千あると言った。

「例例四十九」
香川県佐渡島
大阪の鴨池の島と兵庫の章魚罠取りのおやじが、つぼが千あると言った。

「例例五十」
香川県佐渡島
大阪の鴨池の島と兵庫の章魚罠取りのおやじが、つぼが千あると言った。
柳島と対馬と種子島に各一例というように海岸部に多く分布している。また、三例のうち、青森県に八例、秋田県に三例、新潟県に一例、島根県に四例と津軽海峡沿岸から日本海沿岸にかけて集中し、内海周辺にも分布していることが注意される。このような分布は、後述する歴史的背景を考えるうえで重要である。

一、漁民と船乗りと鵜池

まず、主人公である鵜取りが鵜を続ける娘の出身だが、単に『長者の娘』とする例は三例のうち六例であるのに、『鵜池の娘』や『大坂の鵜池の娘』とし、例が一例見られる。鵜池とは、江戸時代の大坂の代表的な富裕な貧困が、主人公の鵜取り相手をわざわざ『鵜池の娘』と定義していることを示すものではないか。

とくに、一七世紀後半には日本海沿岸から陸路海峡を通じて大坂に至る西鵜航路が、河村村賢によって開発され、後に航路が陸奥や松前まで延長されたことは広く知られている。この時、大阪と大坂との深い関係を示すものではないか。とくに、一七世紀後半には日本海沿岸から陸路海峡を通じて大坂に至る西鵜航路が、河村村賢によって開発され、後に航路が陸奥や松前まで延長されたことは広く知られている。この時、大阪と大坂との深い関係を示すものではないか。

三、米屋並助の出世談

『川渡喜夫代記』（以後『代記』と呼ぶ）という、幕末に西

—30—
廻り航路の船頭として活躍した人物の自伝伝がある。甚大夫は、文化四年（一八〇七）に若狭国三万郡久々子村、現在福井県三方郡美浜町久々子に生まれ、弘化三年（一八四六）には自ら船を購入して廻り航路の船頭となる。慶応四年（一八六八）まで出羽の酒田と若狭の間を松前と大阪の間を何度も往復した人物である。

一説によれば甚大夫のさまざまな体験談や覚見が記されているが、特に興味を引く点が二つある。一つは、甚大夫の家が農業のほかに漁業が盛んに行われていた。また、甚大夫は金融業も営み、自身も船乗りで出羽の間で営業した。

実際にはこれらの職業の間の境界はあいまいなものである。

甚大夫の昔話は廻り航路がまちまちで、途端の間で変わっていくと、農民や漁民や船乗り、商人とうど、それぞれ別の職業としてイメージされる。特に、甚大夫の昔話では廻り航路がまちまちで、途端の間で変わっていくと、農民や漁民や船乗り、商人とうど、それぞれ別の職業としてイメージされる。

甚大夫の昔話は廻り航路がまちまちで、途端の間で変わっていくと、農民や漁民や船乗り、商人とうど、それぞれ別の職業としてイメージされる。特に、甚大夫の昔話では廻り航路がまちまちで、途端の間で変わっていくと、農民や漁民や船乗り、商人とうど、それぞれ別の職業としてイメージされる。

甚大夫の昔話では廻り航路がまちまちで、途端の間で変わっていくと、農民や漁民や船乗り、商人とうど、それぞれ別の職業としてイメージされる。特に、甚大夫の昔話では廻り航路がまちまちで、途端の間で変わっていくと、農民や漁民や船乗り、商人とうど、それぞれ別の職業としてイメージされる。

甚大夫の昔話では廻り航路がまちまちで、途端の間で変わっていくと、農民や漁民や船乗り、商人とうど、それぞれ別の職業としてイメージされる。特に、甚大夫の昔話では廻り航路がまちまちで、途端の間で変わっていくと、農民や漁民や船乗り、商人とうど、それぞれ別の職業としてイメージされる。

甚大夫の昔話では廻り航路がまちまちで、途端の間で変わっていくと、農民や漁民や船乗り、商人とうど、それぞれ別の職業としてイメージされる。特に、甚大夫の昔話では廻り航路がまちまちで、途端の間で変わっていくと、農民や漁民や船乗り、商人とうど、それぞれ別の職業としてイメージされる。特に、甚大夫の昔話では廻り航路がまちまちで、途端の間で変わっていくと、農民や漁民や船乗り、商人とうど、それぞれ別の職業としてイメージされる。特に、甚大夫の昔話では廻り航路がまちまちで、途端の間で変わっていくと、農民や漁民や船乗り、商人とうど、それぞれ別の職業としてイメージされる。特に、甚大夫の昔話では廻り航路がまちまちで、途端の間で変わっていくと、農民や漁民や船乗り、商人とうど、それぞれ別の職業としてイメージされる。特に、甚大夫の昔話では廻り航路がまちまちで、途端の間で変わっていくと、農民や漁民や船乗り、商人とうど、それぞれ別の職業としてイメージされる。特に、甚大夫の昔話では廻り航路がまちまちで、途端の間で変わっていくと、農民や漁民や船乗り、商人とうど、それぞれ別の職業としてイメージされる。特に、甚大夫の昔話では廻り航路がまちまちで、途端の間で変わっていくと、農民や漁民や船乗り、商人とうど、それぞれ別の職業としてイメージされる。特に、甚大夫の昔話では廻り航路がまちまちで、途端の間で変わっていくと、農民や漁民や船乗り、商人とうど、それぞれ別の職業としてイメージされる。特に、甚大夫の昔話では廻り航路がまちまちで、途端の間で変わっていくと、農民や漁民や船乗り、商人とうど、それぞれ別の職業としてイメージされる。特に、甚大夫の昔話では廻り航路がまちまちで、途端の間で変わっていくと、農民や漁民や船乗り、商人とうど、それぞれ別の職業としてイメージされる。特に、甚大夫の昔話では廻り航路がまちまちで、途端の間で変わっていくと、農民や漁民や船乗り、商人とうど、それぞれ別の職業としてイメージされる。特に、甚大夫の昔話では廻り航路がまちまちで、途端の間で変わっていくと、農民や漁民や船乗り、商人とうど、それぞれ別の職業としてイメージされる。特に、甚大夫の昔話では廻り航路がまちまちで、途端の間で変わっていくと、農民や漁民や船乗り、商人とうど、それぞれ別の職業としてイメージされる。特に、甚大夫の昔話では廻り航路がまちまちで、途端の間で変わっていくと、農民や漁民や船乗り、商人とうど、それぞれ別の職業としてイメージされる。特に、甚大夫の昔話では廻り航路がまちまちで、途端の間で変わっていくと、農民や漁民や船乗り、商人とうど、それぞれ別の職業としてイメージされる。特に、甚大夫の昔話では廻り航路がまちまちで、途端の間で変わっていくと、農民や漁民や船乗り、商人とうど、それぞれ別の職業としてイメージされる。特に、甚大夫の昔話では廻り航路がまちまちで、途端の間で変わっていくと、農民や漁民や船乗り、商人とうど、それぞれ別の職業としてイメージされる。特に、甚大夫の昔話では廻り航路がまちまちで、途端の間で変わっていくと、農民や漁民や船乗り、商人とうど、それぞれ別の職業としてイメージされる。特に、甚大夫の昔話では廻り航路がまちまちで、途端の間で変わっていくと、農民や漁民や船乗り、商人とうど、それぞれ別の職業としてイメージされる。特に、甚大夫の昔話では廻り航路がまちまちで、途端の間で変わっていくと、農民や漁民や船乗り、商人とうど、それぞれ別の職業としてイメージされる。特に、甚大夫の昔話では廻り航路がまちまちで、途端の間で変わっていくと、農民や漁民や船乗り、商人とうど、それぞれ別の職業としてイメージされる。特に、甚大夫の昔話では廻り航路がまちまちで、途端の間で変わっていくと、農民や漁民や船乗り、商人とうど、それぞれ別の職業としてイメージされる。特に、甚大夫の昔話では廻り航路がまちまちで、途端の間で変わっていくと、農民や漁民や船乗り、商人とうど、それぞれ別の職業としてイメージされる。特に、甚大夫の昔話では廻り航路がまちまちで、途端の間で変わっていくと、農民や漁民や船乗り、商人とうど、それぞれ別の職業としてイメージされる。特に、甚大夫の昔話では廻り航路がまちまちで、途端の間で変わっていくと、農民や漁民や船乗り、商人とうど、それぞれ別の職業としてイメージされる。特に、甚大夫の昔話では廻り航路がまちまちで、途端の間で変わっていくと、農民や漁民や船乗り、商人とうど、それぞれ別の職業としてイメージされる。特に、甚大夫の昔話では廻り航路がまちまちで、途端の間で変わっていくと、農民や漁民や船乗り、商人とうど、それぞれ別の職業としてイメージされる。特に、甚大夫の昔話では廻り航路がまちまちで、途端の間で変わっていくと、農民や漁民や船乗り、商人とうど、それぞれ別の職業としてイメージされる。特に、甚大夫の昔話では廻り航路がまちまちで、途端の間で変わっていくと、農民や漁民や船乗り、商人とうど、それぞれ別の職業としてイメージされる。特に、甚大夫の昔話では廻り航路がまちまちで、途端の間で変わっていくと、農民や漁民や船乗り、商人とうど、それぞれ別の職業としてイメージされる。特に、甚大夫の昔話では廻り航路がまちまちで、途端の間で変わっていくと、農民や漁民や船乗り、商人とうど、それぞれ別の職業としてイメージされる。特に、甚大夫の昔話では廻り航路がまちまちで、途端の間で変わっていくと、農民や漁民や船乗り、商人とうど、それぞれ別の職業としてイメージされる。特に、甚大夫の昔話では廻り航路がまちまちで、途端の間で変わっていくと、農民や漁民や船乗り、商人とうど、それぞれ別の職業としてイメージされる。特に、甚大夫の昔話では廻り航路がまちまちで、途端の間で変わ